

## 岩手医科大学歯学会第 44 回総会抄録

日時：平成 30 年 7 月 7 日（土）午後 1 時 00 分

会場：岩手医科大学歯学部第四講義室（C 棟 6 階）

### 特別講演

歯科医療センターの感染対策 - 歯科は特別という概念からの脱却 -

Infection control in Dental Center of Iwate Medical University Hospital  
- Standardization with the hospital-wide consensus -

○岸 光男

岩手医科大学歯学部口腔医学講座予防歯科学分野

平成 17 年に岩手医科大学歯学部附属病院は医学部附属病院と統合され、岩手医科大学附属病院の一部門としての歯科医療センターとなった。しかしそれ以前の慣例から、歯科医療センターにおける感染対策は歯科医療センター感染対策委員会が独自に展開してきた。平成 27 年度から、前委員長からその任を引き継いだのとはほぼ同時に、岩手医科大学附属病院医療安全部感染症対策室（ICT）から、歯科医療センターの感染対策を附属病院全体にあわせ標準化するよう指示があった。これは医療法改正、病院機能の第三者評価の推進、などにより、医療安全の医療機関内での一元管理が重視された結果であり、病院の一部門である歯科が特別扱いされないことは当然のことであった。病院全体の感染対策との整合性を図るためには、まずは歯科医師をはじめとする診療スタッフが基幹となる感染対策を理解し、同時に感染症対策室からも歯科診療への理解を得る必要があった。そのため、それまでの歯科医療センター感染対策委員会を再編成し、ICT の専門委員会として、歯科全診療科からの委員に ICT メンバーを加えた「感染対策推進委員会」として活動を展開した。その端緒として世界標準である CDC のガ

イドラインに照らして、診療科ごとに対策が不十分な項目を洗い出した。その結果から、個人保護具の装着基準の策定、廃止できない外来での一次洗浄への対策、歯科医療センターでの感染対策に関するワークショップの開催、といった様々な対策を行った。その過程で ICT との相互理解が深まり、現在は歯科の問題は病院全体の問題として取り上げられるようになった。現在、特定機能病院としての機能評価を控え、歯科医療センターも病院を構成する部署としての評価に備えなければならない。そのためには、歯科医療センターが病院全体のガバナンスに則った改善のための努力を継続していることを示す必要があると考える。

### 研究助成報告

義歯安定剤の使用が口腔内微生物に及ぼす影響

Effects of denture adhesives on the pathogenicity of oral microorganisms

○野村 太郎

岩手医科大学歯学部補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野

目的：歯の欠損に対する治療法の一つである口腔インプラント治療はその安全性や確実性が示されているが、可撤性義歯による治療が選択される場合も少なくない。近年、高度顎堤吸収などの要因で義歯の維持、安定確保が困難な症例が増加しており、義歯安定剤が使用されることがある。義歯安定剤の使用により維持力や咀嚼機能が改善するという報告はあるが、口腔内微生物に及ぼす影響に関する報告は少ないため今回検討を行った。

方法：歯周病原性細菌である *Porphyromonas gingivalis* と義歯性口内炎に多くみられる